



イギリスで、認知症高齢者のケアのために筒状のニット製品が使われています。カラフルで、ボタンやリボン、毛糸のポンポンが筒の内外を彩ります。手を入れるとふんわりあったかい。飾りを触って楽しみ、ホッと落ち着くといえます。日本でも広めようという動きが出てきました。

認知症ケアのための マフ活用講座

ZOOM開催

開催日

2023年 2月11日(土)

時間

19:00~20:30

講師

山本雅彦 氏

元 朝日新聞厚生文化事業団 大阪事務所所長

参加費

無料

申込

不要

※当日下記のID/パスワードで入室ください



完成したマフを認知症の人が使って笑顔になってくれることはもちろんですが、同時に製作を通じて地域の人々の新たなつながりが生まれることも目指しています！

イギリスの病院や高齢者施設で使われている「マフ」

イギリスでは、認知症の人が毛糸で編まれたカラフルな筒状のニット製品を使っている姿を見かけます。これらは「Twiddle Muff」といわれ、内側にはリボンやボタンなどのアクセサリが縫い付けられています。Twiddleとは「(手で)いじる」という意味で、認知症の人がアクセサリを触ることで安心感が得られるそうです。製作しているのはボランティアグループや編み物が趣味の主婦たちで、手作りで作成させたものを地元の病院や高齢者施設にプレゼントしています。



ZOOM (ID : 876 7617 0222 パスワード : 540347)

当日連絡先 : 阪神ブロック 担当 段 090-1140-1610

主催 : 兵庫県社会福祉士会 阪神ブロック